

校名：筑波大学附属高等学校

所在地：〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1

電話番号：03-3941-7176

記載日：平成28年5月16日

記載者：那須和子

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、明治5年に東京神田昌平覺に師範学校が創設され、明治21年に、高等師範学校に尋常中学科が設置されたことに始まります。明治43年には、現在の東京都文京区大塚に移転し、今日に至ります。常に、日本の中等教育をリードし、多くの卒業生は各界で活躍しています。

今年度の1年生は127回生。都心には珍しく、広いキャンパスで、生徒達は脈々と受け継がれてきた様々な伝統を守りながら、生き活きと活動しています。

2014年に文科省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、幹事校として「グローバルな課題解決のできる国際的な人材の育成」を目指しています。

【本校の教育方針】

1. 自主・自律・自由をモットーとする。
2. 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育・徳育・体育の調和をはかる。
3. 教科教育においては、特に体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期す。
4. 特別教育活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。
5. 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。

【自主・自律・自由】

15歳～18歳を過ごす「高校生」という時代は、経験された方は皆さん思われると思いますが、人生の中でも大変魅力的な時期です。「この時期をどう過ごすか」で、人生・社会への考え方も変わっていく、「魅力的であり、大切な時期」です。現在では、18歳に求める社会の要求も徐々に上がってきました。社会の要求に応じて、本校の生徒達も、高校卒業時に求められる「責任」「社会性の充実」「将来への希望」など、様々なことに対して前向きに、積極的に取り組む努力をしています。

本校では、長年に渡り「自主・自律・自由」をモットーに掲げ、世の中がどの様に変化しようとも、自分自身で考え、対処できる人格を育てています。ここで大切なことは、この言葉の順序です。「自主・自律」ができてこそ「自由」があるのだということは、常日頃、生徒に伝えていることです。生徒達もそれにきちんと答えて、「自由」を謳歌しています。

「自主・自律・自由」を目指し、幅広い教養を身につけ、自ら様々な事柄に取り組む姿勢を身につける為の取り組みは、「教科教育」「行事」「部活動」「進路指導」など、学校生活全ての活動にあらわれています。



校舎



行事



授業

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査：進学先は本校で把握しています。
- ② 情報の集約：教員の異動が少ないことから、卒業生との繋がりは密であり、部活動の指導に来校の折などに情報を得ています。
- ③ 活躍状況：長い歴史の中で、日本の中心となって、各界で卒業生が活躍しています。例えば、各省庁・大手企業には、「附属会」と称して卒業生の会が存在し、又、職業別（医師や法曹界など）にも「附属会」があります。卒業生同士が縦の繋がりを持ち、連携を図っています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校は交流人事の制度はありますが、ほぼ希望はありません。

着任後は、本校で定年まで勤続するか、退職して大学の教員となる場合がほとんどです。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

【教科教育】

◆幅広い教養を身につける教育課程

理系・文系の選択は2学年の末に行い、3学年から多くの選択授業が行われます。2学年までは、全員がほぼ同じ授業を受けます。幅広い視野を持ち、それぞれの教科の関連性を理解することは、大学を卒業し、社会に出てから大いに役立っています。また、選択の幅も広く、「第二外国語」では、ドイツ語、フランス語、中国語が選択でき、「芸術」は、音楽、美術、工芸、書道の4科目が開講しており、幅広い要求に応えられるようになっていきます。生徒は、自分の生活を組み立てる中で、理系・文系の進路に関係なく、この様な教養の教科も組み込みながら、日々の授業に励んでいます。

◆活力溢れる授業

本校の授業は、どの教室をのぞいても生徒がよく話しています。単なるおしゃべりではなく、授業に内容に関してのことです。教師とのやりとりが大変多く、生徒からの質問もとても多い事が特徴です。「生徒の発言を引き出す授業」が多く、生徒が受け身の授業はほぼありません。生徒は、互いの発言に耳を傾け、そこから自分の考えを導き出していきます。

また、プレゼンテーションが多く取り入れられています。限られた時間内に、要旨を効果的に伝える技術は、回を重ねる毎に向上していきます。国語、情報、保健、社会…生徒同士の質疑応答にも的確に答える力は、将来社会でも活用できるものです。

今、求められる「アクティブ・ラーニング」は、以前からどの教科でも行われてきました。各界で活躍する卒業生の基盤になっているものと考えています。



【SGH（スーパーグローバルハイスクール）平成26年度指定校】

現在、SGH指定校123校、アソシエイト56校の幹事校を担っています。文科省が指定するグローバル・リーダーを育成する事業ですが、本校は次の8つの能力の伸長を図ることを目標としています。

- ① 専門性と教養
- ② 問題解決力
- ③ コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
- ④ 主体性と協調性
- ⑤ 異文化理解の柔軟性と日本人としてのアイデンティティ
- ⑥ 高い語学力
- ⑦ 議論する力
- ⑧ 地球規模の視点

以上を目標として、次の二本の柱で取り組んでいます。

「SGHスタディ」→全校生徒が取り組む課題解決学習

→1年…基礎的技能修得

→2, 3年…課題研究 以下が、3つの課題

①オリンピック・パラリンピックにおける諸課題

②地球規模で考える生命・環境・災害 ③グローバル化と政治・経済・外交

「SGHプログラム」→希望する生徒の海外派遣

→全学年を対象とし、派遣生徒は必ず学校で発表を行い還元する。

主な派遣先

- ・日中相互交流（中国・約20名）
- ・シンガポール短期留学（約8名）
- ・アジアヤングリーダーズサミット（APYLS：シンガポール・3名）
- ・国際学術シンポジウム（IAS:韓国・3名）
- ・UBC研修（カナダ プリティッシュ・コロンビア大学：3名）
- ・UPI研修（カナダ プリンズエドワードアイランド大学：16名）
- ・クーベルタン・嘉納・ユースフォーラム（2年に1回 スロバキアなど 本校から3名）

どの企画も、現地での英語でのプレゼンテーション、ディスカッションが要求されます。

帰国後は、全校に経験を還元するために、英語での報告会が行われます。



本校の2本の柱
課題解決学習 → 海外派遣

SGH スタディ
(生徒全員)

SGHプログラム
(希望生徒)



【教師教育】

附属学校の使命として「教師教育拠点」が挙げられていますが、本校も6月と9月の2回、筑波大学生と本校卒業生の教育実習生を受け入れています。多い年は50名程の受け入れになることもあり、教科を越えたディスカッションや、実習生同士の報告会を実施し、受け入れ人数が多い利点も活かしての実習となります。実習生は、生徒との年齢は近いですが、初めての「教師」という仕事に、緊張もし、まずは「教科教育」を中心に学んでいます。

また、海外・国内からの教育関係者の授業参観なども大変多いことも特徴です。お話の中で、本校が学ばせていただくことも多く、今後も多くの方々と交流を持ちながら、本校の発展を目指していきたいと思っています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

東京都文京区の文教地区に、広い敷地を持ち、緑多い環境に恵まれた地域にあります。長い歴史（現在の1年生は127回生）の中で、近隣の学校（お茶の水女子大など）との連携を図り、日本の教育の先導として歩み続けてきました。

生徒の通学範囲は広く、東京だけでなく、千葉県・埼玉県・茨城県・神奈川県からも多くの生徒が通っています。東京の中心地域に存在することで「地域」だけではなく、「日本全体」からの注目も高く、関東地区はもちろん他県からの進学希望の生徒さんも多く見受けられます。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

【本校の存在意義】

歴史的にみても、日本の教育を先導し続けてきた経緯を持っています。

- ・「全人的教育」
- ・「アクティブラーニングの導入」
- ・グローバルなトップリーダーの育成
- ・教師教育

など、改めて日本の教育界が注目している内容を、本校は脈々と行ってきました。

高校という時代に何を学ぶべきなのか？将来を見据え、生徒の個性を尊重し、幅広い教養と視野を持った生徒を輩出し続けてきた教育方針は、これからの日本の教育をリードする立場です。教科教育は勿論のこと、特に教師教育においては、毎年多くの教育実習生を受け入れ、「教員免許状更新講習」も開講し多くの教員が携わっています。また教科書執筆に関わる教員も多数います。大学との連携を図り、より高度な教育研究を行い、それを次世代の教師に受け継いでいくという循環も大切な役割です。

「グローバル化」が言われる中で、本校はSGH（スーパーグローバルハイスクール）の幹事校を担っています。現在は諸外国からの来客も多く、日本の教育の視察を本校で行われる方が大変増えてきました。多くの卒業生が各界のトップリーダーとして活躍している本校は、これからもその教育方針を変えることなく、幅広い分野での次世代のリーダーを輩出する使命があると考えています。



教育実習

G7ジュニアサミットの受け入れ